

ク氏の速印器も似たる處なきよしも非ず然れ共彼れの活字の鍵形の屈曲を要し以て特許の眼目とす予が曩きも考案したる者の普通の活字を其儘も使用し得るを以て發明の主眼とするありたれば予が發明の彼れの發明は優れる事論を待たざるが如しと雖も我れの少く共八百九十七文字を要し彼れは僅かよ七十三文字よて事足る、是れ予が自から迂遠ありと認め世人も其高價も躊躇するの状あるを以て特許を中止したる所の者ありし、而して彼れの直線に平列し我れの圓形も整頓す然れ共兎も角東西洋を異にし風も差あり而してその發明の活字を以て爲さんとするの企か相似たる者あるを見て千百の異人種中よ一人の日本人よ遭遇したるの感あくんばあらざるあり速印器のそのの特許を受けたる者よても五千よ下だらず各々幾多の需要者あるべきあらんが此の多數の構造を一班讀者よ報道するの益ありし皆便利の爲めよ是れを三目よ區別して指示せん

甲

印記せんとする文字又ハ交字を挿入せる上部を一定の位置よ持ち來りて印記するもの
 一文字を印記せんとせば指針を上下又ハ左右よ轉して指示せる文字の點よ持ち行きて他の一部を下部又ハ左方よ推す者
 以上の組織よ由りて文字を殊別よする者
 文字を一個の版面とあす者

(圓形の者)

(上下左右よ轉する者)

(眞直の者)

乙

階級の如く記認せられたる部點を推し下せば文字飛び上りて紙上は印記する者

針山の如く順序なく列を爲し甲の部點を推し下せば甲の文字紙
 上は印記せらるゝ者
 一部の階級の如く記認せられたる部點を推し下せば文字飛び上
 りて印記し而してろの記認せらるべき者一圓形は二個あり二個
 なきものゝろの首字顯ゆる以て他の一部を押しつゝろの一つを
 推せば上部の者顯ゆるゝなり然らざれば首字顯ゆるゝあり

丙 懷中速印機

是れハ唯一らあるのみ即ち今回余が合衆國特許局より出願し
 たる者一あるのみ(上文ハ舊稿にして懷中印字器の特許濟
 あり)

以上の種類中最も多く用ひられつゝあるハこの第二の種類あり
 余が發明にして特許せられれば實は二方面を開きたるものを云ふべし
 又余が發明の速印器ハ全く時計の如くにして頂上の龍頭を廻轉せば

指針自から印記すべき文字を指し示す事あり(下層以上舊稿ハ係る)

● 印字機

無言説話機

印字機とい何物ありや

印字機ハ書冊帳簿普通紙料其他凡ての物品ハ書記印刷する等從來筆
 書的万般の勞働ハ代用せしむるハあり
 實業家多忙家著書家代言士の筆にて記載するとよ於て多くの時間と多く
 の勞力とを空費せしとを知らるゝならん而して筆書の勞働ハ口の働
 きハ比して如何ハ緩慢ハ如何ハ疲勞多きかを發見せられたるならん
 否唯々時のみならず尙又活潑なる精力ハこの勞力の爲めハ消耗し去
 り爲ハ一般商略上事務上の注意を欠くハ至るハ一般人士の特ハ知了
 せらるゝ處ならん而して僅少の印字機を使用する價格を吝みて商務上
 事業上の注意を以て欠乏せしむるか如きハ實ハ尤も憐む可き經濟

の道と云ふ可く又尤も愚かなる節儉の道と云ふ可きなり。而して我が愛する讀者諸君の米國の實業家か通信をなすに當りて多くの印字機を使用しつゝあるを知了せらるゝからん何となれば五人の書記生をして爲さしむべき労働の明かよこの印字機使用者一人よりて爲し遂げらるればなり且つ筆の働ける結果として其書信の甚た讀み難く且つ其意味を知るに苦しむものあるも是れは反して印字機よて印記せばこの書信を受けつけたる人も著書の原稿草案の如きも充分に了得し得らる可く又一回の動作よて同時に數葉を紙料の原簿より數葉より二十葉迄印刷し得れば一の手控として手元に残し得べく而して他の多くの人々も通信するを得べきを以て使用者も利益多き事なり卓越ある著書家實業家も又時よ左の感觸を出す事あるは予の信する處あり筆書の労働の思想と共に伴隨せざる者あり而して筆書するに當りての勞働の緩漫なる爲め最始の考案常は最良

ある考案——を亡失するものとあるものあり且つ筆書はありての志意の妨閉せられ早書早綴の勞力の爲めは心經を疲勞せしめ而して出來上りたる文章——書信の結果の前後の照應を欠き口調の光輝を失ふものありと

この印字機は書記器機の根原的新原理を含蓄し而して世界各國の特許せらるゝ特許專賣專製的精神の組立の如何に成功多く且つ實用的印字機たるを証明しつゝあるかを知らぬ足らん

この印字機の多くの組織を鑑査し各國の印字機を調査したる結果として今日印字機社會の達し得る完全ある度合よ迄如何に多く達しつゝあるやの購用者諸氏が調査好評あらんことを望まざるを得ず而して余は云ふ一度この印字機を用ひたる人は再び筆書の労働に復歸することおかるべきを

○印字機の何を爲すや 予の信ず當時の發明として時間の經濟的よ

於て未だ斯くの如き廣大あるもの非ざるを而して又印字機の如く文
學家實業家は愛玩せらるゝもの非ざるを

印字機の筆書の勞働時間の五分の一に於て凡て諸氏の勞働を爲す可
し而して筆書の如き疲勞ある事あしこれ實に諸氏が尤も價ひある時
間及び勞働の利益は非ずして何ぞ

○讀み易き事 印記せられたる印記文章と筆書せられたる書記文章
との比較に於て損害を蒙る可き誤謬は惡書の書記文を誤讀するより
より起りたる事の例は今日迄實に稀乏にあらざるあり又印刷するに
際し惡書の原稿を組上ぐるとに於て大困難を引き起し且つ校正者か
如何に多くの苦辛(徒勞)を爲したるかの人の知る處なり殊に受驗者の
惡書の爲めは全く其答案を試験官が通讀せしめて直ち劣点を附す
る事の往々實際に存する所ありとす又代言士の訴訟主点の時として
文字の不明瞭ある爲め其主旨を誤認せられ勝訴を得べき事實も拘

らず反對の結果を見るときあるの屢を聽く所あり殊に倍審官の制度あ
るに邦國に於て然りとす
而して凡てこれ等の困難に印字機を使用する事よりて全く廢絶滅
亡し其根を絶つに至る可し而して該印字機の印記の唯一明瞭あるの
みならず又頗る美麗確實ありとす

○數葉を印記す 事務繁劇の役所(事務所)に於て調整せらる可き報告
目錄年表通信等の種類の望まると數枚を同時に印記するものあり(炭
酸墨紙の用途と使用せらるゝ紙料の厚薄を準して三枚より二十枚迄
同時に印記し得られ)且つ斯くの如き結果の充分時間の徒費の補助す
ると少からざる者あり
其他一般の筆記及び正確なる書記の同様の方法によりて得らるべき
者とす

○家宅に於ての印記機 (教育上及び職業上)印字機の綴字、句讀法及び

文章を教授する事の最良手段とす且該機は熟練したるものゝ歐米
よても盛んに需用せらる事、なれの漸次我國よても一般普通の商店
に迄用ひらるゝに至るの期して必ず可きありし——
チャールズ、リード、嘗ての著書未來の偉人は於て曰く

“I advice all parents to have their boys and girls taught Shorthand-
writing and Type-writing. A shorthand-writer who can type-write his
notes would be safer from poverty than a great Greek scholar”

Charles Reads “The Coming Man”

(余の世間の父兄よりの兒童及び女子は速記(器)法及び印字機を教ふる
べく凡ての父兄は注告す 印字機を活用する所の速記(器)者は大希臘
(英語)語の學生よりの(大學生)生計の上より論せばより多く安全なり)と
この印字機や其用方や簡易其價格や廉其使用年限や永久其構造や
強健而かも此發明たる近代印字機の新原理より推究せる者よして

世界各國政府の特許を有す可き近世偉大の新發明たることを陳ぶるも
敢て問あきを信ずるあり

○無言説話の事 汽車汽船機械工場其他喧擾の場所又の秘密或の發
言すへからざる席(法庭等)は於てのこの印字機を探りたる龍頭を回轉
せの各種の文字を指示するを以て容易に説話し得るものなり去れの
旅行者に必用あるの云ふ迄もあく又實業者が平素に必用ある者なり
○銀行郵便局に必用あり、銀行の爲替額面及び郵便局の爲替事務及び
貯金事務の金額姓名を記入するに便あり○商家が物品の價格を記入
するに印刷せらるべき恰好の者あり○印記せられたる上部の印刷紙料の
コッピープレスより復寫せらる可し

○印字機の重量僅に壹磅内外あり○職業を有する凡ての人よも此の
印字機を要するものあり、代言士の捨て難き必用を發見するある可し、
印字機を使用する商業家のこの印字機の大なる價格を知るある可し、

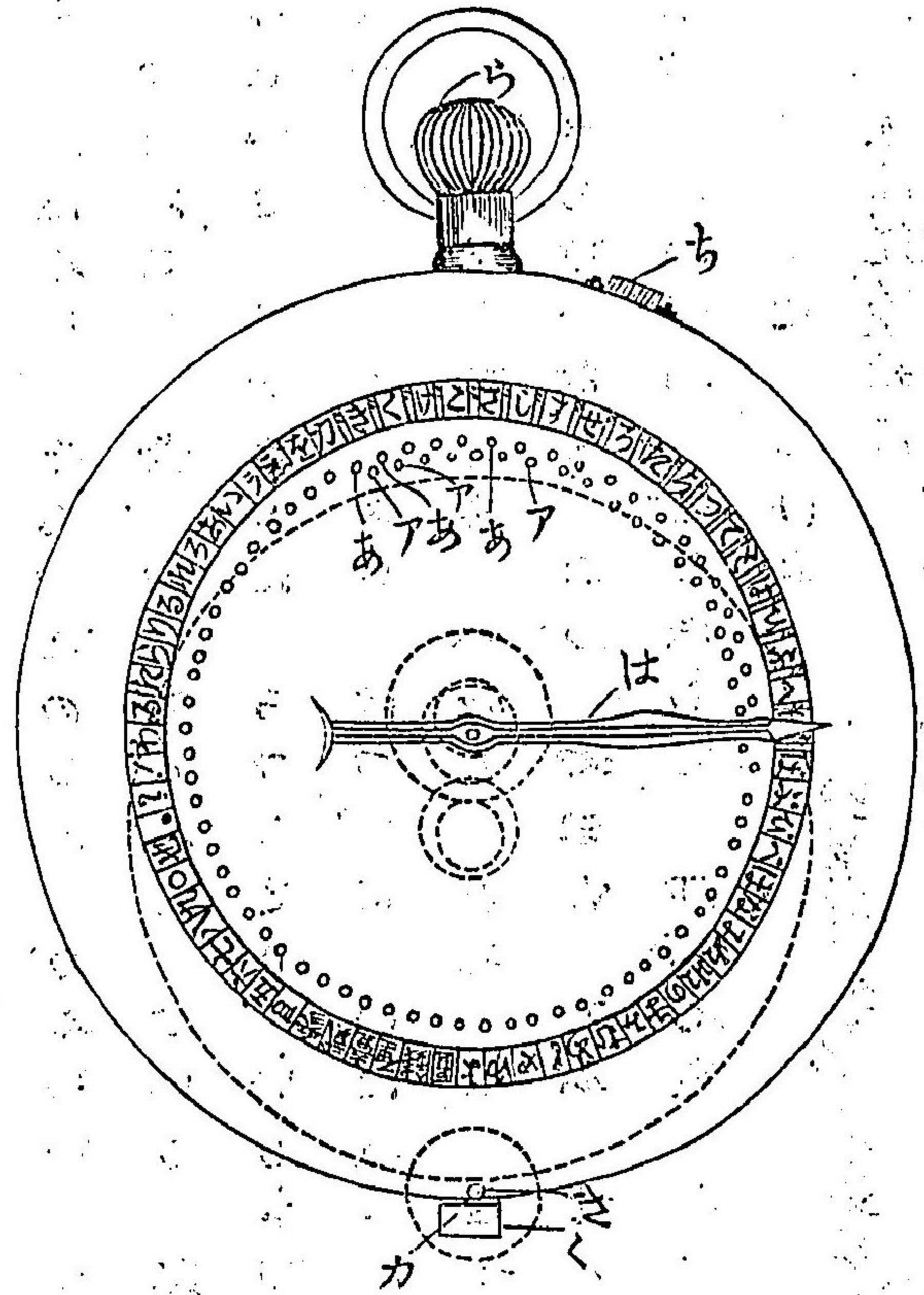
説法家のこれによりて已れの草案を作る可し、著述家のその原稿を編するある可し、通信者のこれによりて明確な通信すべく、速記者のこれによりて人の言語を速寫す可く、商業通信上（はがき）よても數葉の半切の書す丈けの通信を明細に印記するの便を得べし、啞者の以て同輩間の通信及び普通人は自他の意思を通信するの便を得べし、啞者輩も自在に文句を印記す可し、殊に婦人女子がみよす流の文字を癡して印刷物とせんよの判明簡易の効實は豫想外に出る者あらん乎

●印字機使用方法

印字機の使用方は其た簡易ある者にして從來懐中時計を有し居れる人の云ふに云いず同器を有せざりし人と雖も印字機を手よせり自然に其使用方法を了知するよ足らん乎然れ共今簡單に其使用方法を記すべし

- (一) 先づ働幹頭(ら)を左手よ持ち其反對の方向よ印下卸(か)ある事及び働幹頭の左右孰れの方向にも回轉すると雖も抜き去るべき者よ非ず印字機は固着せる者ある事を知るべし
- (二) 左手の指頭よて働幹頭を回轉せば硝子表面下の指針(ハ)其回轉の方向よ反對して回轉し以て文字を指示する事を知るべし
- (三) 指針の示せる文字の即ち印下卸(か)の下よ存せる文字あるを知るべし
- (四) 印下卸(か)を壓下すれり印字を紙料に印刷するを知るべし
- (五) 印下卸を壓下し印字を紙料に印刷すると同時よ印下卸(か)の前方よある護謨車回轉し印字機をして紙料上を回轉せしむる事を知るべし
- (六) この護謨車が印字機を回轉する幅の印字すべき印字一文字の幅よ等しき事を知るべし

- (但し上等の構造の文字の間隙を自在に伸長せしむべき幽輪あり)
- (七) 印字を印刷せしむべきインキの常は鋤幹頭の回轉よりて印字に附着せしめらるゝ者あり○而して其附着すべきインキ盡くる時の印字機外側にあるインキ供給部より印字機用インキを注入すべし
- (八) 印字機にて一行を印記し終はれり適當の行の空間を隔てゝ下部に印字機を持ち來らし(又の紙料を上部に廻轉し)印記すべし
- (九) 常は装置すべき導板ある者を添へたる印字機ありこの各別は區分したる導板上を自在に印記せしむる者とす
- (十) 數枚同様の者を印記せんとせり印記せんとする紙料の各中間は炭酸墨紙(可成半炭酸墨紙)として表面のみは色采を施して裏面は少しも透入せざる者)を挿むべし然る後印記すれり其紙の厚薄は準じ二葉乃至廿葉迄を印記し得る者とす



次頁に示せる
は印字機にて
はがきに印記
せたる見本也

はいふこのたび　うが　かねて　こうじゆつ　の　そつぎせんじ
 ろよふ　こぼつ　びらの　よじ　つきては　一げん　もうじあげ
 たんぞんぬに　そろ。このじよ　かんらい　うが　をもうとこち
 を　かたること　壹じつ　壹のばん　ないこ　敵の　おたづね　かん
 いんせい　そつぎ　に　うつじとり　いんまつに　ふす　されば
 その　そうるん　より　けつびに　いたるまで　こうじゆつに
 参ぬんの　とつきを　へたり　あるいは　をそる　じゆび　かん
 てつせざるを。なま　おが　あまの　あま　せいしん　きやくに　ふ
 へせば　かひせい　ぞうほして　四はんを　よに　いだす　つきむね
 を　なんじやに　つげよ

せいせいせいせいせいせい
 せいせいせいせいせいせい
 せいせいせいせいせいせい
 せいせいせいせいせいせい

藤木顯道

(十一)本器の漁車漁船等其他喧擾の場所及於て又ハ大聲を發すべから
 ざる場所ありてハ唯指示盤上のみ及於て互ハ談話を爲す事
 を得べければ又秘密通信も用ひて可なり

(十二)指針ハの位置をして一畫又は二畫を轉移せしむれハ指針ハガカ
 の文字を指示する際ハの文字を紙上ハ印するを得べし斯くの如
 くすれハ常ハ二畫區つゝ異ある文字を紙上ハ印するを以て双方
 間ハ特約あれハ如何ある秘密通信も自在ハ爲し得るあり且つ日
 々ハ其秘密通信方法を變換するも双方共ハ更ハ記臆の勞を要す
 る事あかるべし

(附)尙實物を手よせハ多くの説明を待たずして自カラ知了するを得
 べし

印字機速印器記音術

實地練習

文 實地 練習

あくす あくせ あこち あこた いきせ いきち いきや いこと
うきた うきど うきる うきり うきみ うきや うきや うきや うける
あかさ あかの あかも あかす あかた あかた あかた あかた あかた
をひで をすあ をたか をさる あくろ あくさ あこと いきし
いきさ いきつ いこつ いこた うきち うきら うきれ うきひ
うきほ うきし うきよ あけす あかあ あかま あかと をきた
をちし るるみ をしみ をつよ をつよ をかた をとよ をたけ
あくし あこつ あこて いきす いきた いきて いこて いこと
うきて うきり うきろ うきほ うきも うきす あきや あかあ あかか
あかみ あかた をきち をきと をかた をまを をきみ をすみ をすみ
をちち をくよ かざり かざる りする げいや げつり げやま げいろ
こわみ こざる こがる こざる ぶかつ ぶつて すてる すがめ すだち
ろしる ろしき ろばし しふし しがむ しこむ ししつ しりす むだよ
せしつ せがめ せつる せわや せわす かざり きすて けいき げい
けつる けする けまめ こたま こじつ こきみ こじり かばつ するめ
すてた すりき すばめ ろしれ ろまつ ろきり しでき しきみ しこみ

文 實地 練習
かから かさ かり しま みかたち かしがさ かみすき かきとり かきのき かきらり
かきのみ かぎのと きりのき きりさし きりやま きりたよ きりこむ くりのき
くくりく くりやま くりのみ くすりや けぬきや けほねが げいげの げいしや
げいする ぶろつき ぶまつく ぶろびと ぶこくの こそくの ぶしろく ぶろじみ
ぶいあから ぶくろふ ぶすびと ぶすまる ぶけみち ぶまみち ねかるみ ぶきみで
ぬまたの ぬきさし のぶふし のぶふし のぶふし のらいぬ のらいぬ のみとり
のぶきや のりすりのりうり のちのち のみこむ のりやひ のらいぬ のらいぬ
のらさく のをくり のまつり のぶあ のりこし のみどり のらくら つるどり
つきぢの つおせん つかへる つこうる つりがね つりがね つりがね つりがね



ついはむ つるかめ つみぐさ つりこむ つばさ を とりがね とりこむ ところやの
とちより とまらぬ とりとめ とりつき とりつく ちりかみ ちりぢり ちりつく
ちちうへ ちかぶろ ちしほよ ちがらの ちりどり てつどう てつたい てつくひ
てきさつ てきする てきもみ てつだま たくみの たつみも たくさま たくしき
たつひと たつてり たまりけ つりかぬ すみだがわ すみればな すかたみの す
ばらしさ ずいみゆき すがめびと すぐめどり すりばちや すりつけき うちつひも
るまつる ろつがいの ろばうとん ろとらかす しらすよて しらすよの しかいを
ばしまつびと したきなり わかよゆえ あのみすめ かならずかたからずか ちぢ
りやまかありくる よろてひの にぎわいさ ひどなみを よりるばかり なりけりと

亂暴 浮雲 相談 案內 安心 暗夜 新田 深淺 麥飯 萬代 蠻夷 晚春
 鼻 辨士 凡夫 文武 運動 分散 分際 珍事 艷書 大人 殿下 獨吟 淫乱
 聲 亞銘 案文 安寧 行在 洗米 前後 万々 審主 盤石 愕然 盆裁 文朋
 實 文法 分析 分子 珍奇 中門 大音 電氣 不緣 姦淫 上段 安置 安閑
 地 安樂 安恩 安產 新墾 寒暑 萬物 晚學 萬事 萬端 便利 便宜 凡智
 練 分派 分限 文書 部分 賃錢 忠心 代言 英人 封印 專任 下段 安堵
 習 安危 暗殺 安泰 安全 半年 人民 晚飯 板木 万國 門徒 辨舌 便船
 梵學 文筆 分離 文典 珍談 片時 大臣 談判 土瓶 不敏 返事 遍界

變死 返答 秘傳 貧民 擯斥 我慢 頑固 岩石 下段 玄米 下男 銀行 議論
 延喜 援軍 外見 便利 村民 因明 善美 郡長 破談 拜顏 半期 飯臺 偏人
 變事 片時 彼岸 貧人 卑賤 眼目 眼前 外典 現物 疑問 吟味 延引 遠島
 門弟 煎茶 見聞 便益 府縣 當村 千辛 愚鈍 軍談 拜見 敗軍 半金 返杯
 返信 變心 非番 日限 鄙人 雅言 間道 顏色 頑是 下品 言語 銀箔 疑問
 遠方 口坐 線香 肝膽 新聞 奸邪 記音 清朝 万苦 軍兵 軍師 背面 半夜
 半金 返歌 遍歷 偏執 非分 批判 非難 外聞 眼下 元祖 俄然 原本 下人
 疑念 銀主 緣談 一口 線路 外聞 聞知 達辨 町村 起因 今朝 軍務 八万

來朝 六合 朗詠 牢死 左右 誠忠 赤道 四艘 消毒 少女 燒香 所望 性來 所勞
 長 小生 證書 正体 生得 所藏 終日 終夜 草木 訴狀 總計 總理 草紙 訴訟 水晶
 聲 來迎 老婆 老夫 路頭 左様 成功 齒痛 燒耐 妾腹 勝敗 書狀 生國 上浴 生類
 實 小說 少時 上達 諸所 祥瑞 種痘 相塲 早朝 公訴 草稿 總錄 早世 双刀 水葬
 地 來陽 老母 癆症 路用 聖道 書樓 法用 書中 生涯 障子 唱歌 小事 性根 上帝
 練 少佐 商社 消息 暑中 小用 囚獄 殊勝 粗暴 相違 槍術 相應 爭議 葬式 總体
 習 出納 冷氣 郎等 老成 砂糖 成長 星霜 私友 承諾 正午 正道 正氣 正味 小兒
 勝利 上帝 笑止 小介 初冬 上坐 秀逸 宗旨 僧房 相方 蒼海 葬禮 總裁 宗匠

想像 同士 相撲 大望 多能 手相 登城 步兵 賞美 抑揚 諸侯 仲尼 後世 賞爵
 沛公 義兄 警戒 蓋世 平生 世主 倉卒 平易 孟子 羽毛 器皿 情死 體中 多功
 大州 多少 東風 到來 勝負 赤道 塲屋 開方 高祖 豪傑 道義 謀主 中道 毛髮
 子房 僕妾 趙高 周公 王者 世家 非常 小事 道理 爪牙 明德 風習 中業 大風
 大數 低頭 豆腐 中學 正物 講堂 詩集 五公 項羽 孔兄 盛衰 嗚呼 盜賊 剛銳
 不幸 輕重 平易 子貢 聖王 刑政 井底 後者 清淨 夷禮 懲罰 揚墨 大功 帶刀
 的中 當日 學生 承知 戎狄 寧歲 高帝 兄弟 彭城 義帝 聖賢 太公 大謀 大幸
 猛獸 忠恕 州國 正直 英國 傾城 定名 定則 粟米 中國 道理 功勞

同音忌避法實地練習

專	琴	言	神	上	紙	髮	以後	圍碁	位牌	違背	遺狀	以上
以下	鳥賊	醫藥	違約	醫案	異庵	威儀	異義	法皇	鳳凰	表紙	拍子	
奉幣	砲兵	法衣	方位	方丈	放生	放蕩	奉燈	法度	報土	放題	砲臺	
披露	疲勞	必死	必至	自愛	地合	依賴	以來	威勢	遺精	幾日	膏荷	
海面	海綿	佳人	歌人	解剖	海防	戒行	開業	歌舞	妓株木	琴師	今年	
歌舞	株	貴答	龜頭	氣先	妃	氣隨	奇瑞	希代	鍛	校長	皇張	
劍法	憲法	後園	公園	神事	仁慈	地鳴	地形	自讀	持參	沈香	人口	
寺社	侍者	辭世	時勢	字典	自轉	地坪	實母	上木	繩墨	戲談	上段	
定日	情實	上氣	蒸氣	嘉例	家令	漢書	諫書	肝膽	感嘆	鑑札	監察	
奸人	肝腎	感情	勘定	掛物	賭物	髮切	紙切	金庫	禁錮	金主	禁酒	
桔梗	歸郷	祈念	記念	謹言	金言	近國	禁獄	歸國	積穀	規矩	菊	
記事	雉子	奇見	危險	飢寒	龜鑑	奇謀	希聖	木大刀	氣立	今朝	袈裟	
兼帶	謙退	口論	公論	鼓弓	呼吸	工兵	公平	小路	麴	爭論	總論	
書肆	庶子	宿酸	正産	寺號	自業	次號	間斷	閑談	寒暖			

語句實地練習

黄金即ち權利
 延引の時間の賊
 信友の成功の友
 學問の心志の眼
 商法の善財の母
 肥厨の瘦産の基
 温順の愛敬の母
 本心の決断の主宰
 勞苦の百事は勝り
 墳墓の貴賤の會館
 疾病の遊蕩の租税
 活犬の死獅は勝る
 事物の秘密を要す
 智者の愚人を御す
 内乱の國家の死病

富者の貧者を使役す
 英才の即ち忍耐あり
 一家の計の和あり
 兵卒の血の將帥の榮
 學問の金庫練習の鍵
 災害の帝王も諂はず
 常は飲む者の常は喝す
 一生の事業の夢の如し
 無實の名の禍の門なり
 嫉妬の角の眼中は生ず
 甘言する友の友は非ず
 舌頭の響の終身の寶器
 早起の富貴の始めなり
 光陰の造化の元金あり
 東は近き者の西は遠し
 量過くれば布袋を割く
 英才は勉強の別名あり

船よ水より火を恐る
 孝を以て君は事れは忠
 理は順へば義自ら存す
 曲れる杖は曲れる影あり
 疑ひ深き人と共に謀るを
 閑暇の繁忙よりも猶苦し
 一生の計の勤むるはあり
 小債を拂ふて大信を得よ
 欺偽の借債の背の上は騎る
 潔白ある衣は汚も著し
 怒て威無きものは犯さる
 一利あらしは一害從て起る
 一日の師の終身の父たり
 私を以て公を枉ぐる勿れ
 意の在る處は必ず道あり
 樂の苦の本苦の樂の種子
 利を見て義を缺くと勿れ

汝の求めぬ遂に友たるべし
 張りつめたる弓の終に弱し
 諫言を防ぐ棚の悪行の道標
 談話を嚮く者も實を語るも
 酔友の酒宴よのみ親切あり
 苦を儉約すれば小兒を損す
 不學の慢心よりも答少あし
 酒よ勇む兵士の戦場も臆す
 大富の足る事を知るもあり
 薔薇の絶美あるも尙刺あり
 蒼卒の發言の常も悔を貽す
 一言中らざれば萬言用無し
 眞正の美貌の紛黛を要せず
 決行果斷の處世の要訣あり
 破損する船舶よの順風あり
 賢を妬み能を嫉むこと勿れ
 世と相移るの聖賢の道あり

曇りおき心の非難を恐れず
 朋友の我身の外の我身あり
 徳以て遠きを懐くも足る
 能く吠ゆる犬の必ず噛まず
 各自の家屋の其人の城郭なり
 借の一字の家を破るの基なり
 我れ能く我が浩然の氣を養ふ
 一の虚言の多くの虚言を作る
 一を罰じて百を勸むるを要す
 禮あれば安く禮なければ危し
 狙を定めずして矢を放つ勿れ
 國を利するの己を利するなり
 徳の人を感じ風を動かす
 譽を求めんよの諍を厭ふべし
 徳義無きもの立事能はず
 一犬虚を吠へて萬犬實を傳ふ
 遠き慮り無ければ近き憂あり

己を推し人よ及せば人心服す
 夫婦の安樂患難を共みすべし
 類を比して異類を遠ぐる勿れ
 抜け目無く働けば利益よ治し
 夫婦和するは一家の肥料あり
 虎穴よ入らざれば虎子を得ず
 拙を行ふ者の巧よ言ふよ勝る
 片言を聞て訟を断すべからず
 厄日どの曠じく過すの日あり
 權威を怕れて道を枉ぐる勿れ
 外寡慾よじて内貪吝ある勿れ
 俄よ爲したるごとく俄よ破る
 能辨の決して智者の證よ非ず
 天下を動かす者の自から動け
 愚ある雉子の酒宴よ鷹を招く
 熊よ尾を附くるも獅よあらず
 家よ坐して戦場をば談じ易し

負債の返却の危険の消滅あり
 雲雀の片股の一羽の爲よ優る
 金剛石の糞土よ汚すも猶尊し
 夫の賢愚の其の妻を見て知れ
 己を潔ふするは是れ心の豪也
 小孔の水を漏して大船を沈む
 二兎を逐ふものの一兎をも得ず
 羽織の衣服よ合せて是れを裁て
 徳善の勢の身体の勢力よ十倍す
 両親の教育の学校の教育よ勝る
 小犬野兎を追ひて大犬よ獲らる
 睡眠を好まば倒産の臥床を買へ
 富を得れば才智と健康とを損す
 一片の浮雲が太陽を掩ふよ足る
 不慮よ備ふるは處世の急務あり
 禍の口より出で病の口より入る
 人をば許すとも己れをば許すあ

君子の交を絶つる悪聲を出さず
 俗智の害の盲智の利益も若かず
 一日の品行の千歳の名譽も關す
 話したる説話の放ちたる矢あり
 婦人の善行の一家の幸福を生ず
 己に勝つもの真の勝利者あり
 義を見て爲さざるの更なきあり
 善く寵愛するもの善く折檻す
 容易し得たるもの容易く失ふ
 井涸れれば水の價值を知らず
 一家の儉素の婦人の率先し始る
 一擲の善行の一斗の學問は當る
 吾を責めずして人を咎むる勿れ
 學の附室を欺かざるより始まる
 打たれて笑ふ者の再び打たれず
 美なる羽毛の其鳥をも美あらしむ
 庖厨を少くすれの家屋を大にす

百噸の大砲の飛鳥の爲めは發せず
 仁者の一錢の法律上の拾錢は優る
 莫大の禍の須臾の忍びざるより起る
 一點の火光能く焦天の猛獸をあす
 文明開化の基礎の女子の心あり
 一年善あらざれば七年の憂を招く
 一利を起すは一害を除くより如かず
 一錢を省けば則ち一錢の益も等し
 智を好で學を好まざれば其弊や蕩
 論を好で學を勉めざれば其弊や躁
 二心を懐くは二兎を逐ふ者も等し
 土地の所有權の上空も達すべし
 疎漏ある者の一事を成す能はず
 利子を取らんより利子を出す勿れ
 身を修め言を踐む之を善行と云ふ
 此世の一和の總て不和より成立つ
 男の法律を制し女の品行を作る

希望の吾人の勢力あり又天國あり
 人の始終絶わす賢き者に非ず
 約して遂げざる者の用ゆる所無し
 活潑ある精神の健康ある身體に存す
 婦人の幼児の教育を遅引すべからず
 價値を知らずして物を賣買する勿れ
 君子の親も事ふる志を養ふを大とす
 一人の目撃者の百人の傳聞者も愈る
 徐よ急げ、又熱して冷よすへし
 巧言美と雖も之を用ゆれば必ず滅す
 婦人の殊も嫌疑の箇所は遠さかるべし
 不義の人よ近ければ其禍測るべからず
 機を見て動けば能く絶代の功を成す
 直を以て怨も報し徳を以て徳も報ふ
 林間の百鳥も手中の一小雀も若かず
 禮を知らざれば以て立つことなき也
 悦樂の勉強も依て得る處の賞典なり

義は合ふの事遇へば則ち之に従ふ
 身を謹み用を節して以て父母を養ふ
 善美の著書の永久不滅の生命を保つ
 借る人と成る勿れ又貸す人と成る勿れ
 直ある杖も水中ありての曲りて見ゆれ
 一錢貯ふる能はざれば萬錢積む能はず
 一家の和睦の婦人の善良ある行も依る
 聰明敏智の天才も非ずして勉強もあり
 憎くさの口より起り寒さの風より生ず
 勉強の人能く光陰を化むて黄金と爲す
 錦を着るの本の纏縷を纏ふの日も在り
 今日よ爲し能ふこと明日も延す勿れ
 國家の基礎の其少年を教育するも在り
 只大人傑のみ大瑕瑾あることを得べし
 全世界を知るも自身を知らざる者あり
 忠臣の二君も事へず節婦の二夫に見へず
 旗色を見て去就を決するの法中の法あり

智者の感の仁者の憂へず勇者の懼れず
 身は反して誠ある樂焉あり大なるの莫し
 人の己を知らざるを患へず其不能を患ふ
 吾人の現在を愚痴は未來を智慧に献ぐ也
 今日爲されざる所の事の明日も爲されず
 事が餘りに晚くされば萬事盡く晚くある
 温和ある言の人をして信仰の心を萌さしむ
 温和ある貌の人をして尊敬の心を起さしむ
 身を慎めば過無く用を節すれば乏しからず
 古來の從僕は感嘆せられたる者あるあり
 事本餘りも晚くされば萬事盡く晚くある
 少き時常は老を作す想ふて以て學を勉むべし
 自由の貧者と借居らず又富者と借住まず
 羅馬の自身の強大ある力も由て自ら倒れたり
 奈破烈翁小さくされて英國も亦小さくなれり
 信仰の一切の智識の終極にして端緒も非らば
 大才にして狂氣を帯ばざる者の殆んど稀なり

絶へず飲む者の味の味、す常は話す者の考へず
 金錢を愛するの念慮の金錢増殖の歩合も比例す
 害も成る事あらぬ者の何の益も成る事あり
 大膽の中より才力あり妙法存し好機自から至る
 幸運一たび頭上も震動すれば悪運悉く避け逃る
 眞正の希望の人も眞正の芳香を興ふるものあり
 二人配合して伉儷を成すや直ち悪魔來るべし
 端緒を開ける者の己も半ばを爲し了へたるあり
 世界の戰場あり善惡必す此も闘ひざる可からず
 我の非よして勝んよりも寧ろ是よして敗れんのみ
 己の技倆を匿し得るの大なる技倆なくんばあらず
 浮世の悪口の、名譽高き人が社會も拂う租税あり
 眞實の萬事の根本あり一切の才力の最大要素あり
 極めて欲する所少き人の極めて多く得る者あり
 國家の干城たるの友あり軍兵や財寶の之も與らず
 時取て必要ある者の時其者自から之を作り出す
 萬物の死するに即ち生る也(甲も死して乙も生る)

自由といふ法律の許す所の者を爲すの力に由て成る
 改革といふ弊害の修正あり革命といふ權勢の變移あり
 高尚ある事と可笑しき事との相去ること只一步のみ
 自身に害を蒙らする者これ我が身これ我が心のみ
 吾人が敵の中最も恐るべき者、屢最も小なき者あり
 名聲の何の爲すや、是より字紙の一部分を塞ぐ而已
 政府の何ほ藥劑の如し小毒を以て大毒を治するのみ
 強迫の只熱心家を怒らする而已改心せしむる能はず
 文學上の事も金錢上と異なるか、人只富める者、貸す
 人の唯た其半箇、彼れ自身あり、其半箇の彼の吹聴のみ
 人の人たる道を盡す、即ち幸福を得るの方法手段あり
 快樂の爲めに造る物も及ぶだけの眞實の近からしめよ
 人の云ふ神の常、大軍を助けて小軍を滅ぼしたまふと
 大人の群衆喧囂中に在て泰然として不群の獨立を全ふす
 内は良將なくんば外は百萬の兵あるも何の恃む所やある
 無言の自ら已れを信せざる者が取るべき最良の手段あり
 事を爲すに敏かりざる人の始終厄災と戦はざる可からず

人の名譽の記號を買はんとて已れの名譽を賣ること多し
 汝海に入るの路を知るを得ざれば河口は隨ひて往くべし
 職業より力を致せ然らば汝の安全快活の道路は赴く者あり
 豪俠ある政策と公衆の尊榮幸福といふ絶つ可かざる連鎖あり
 政治上は於て其所爲恐懼は起りたるもの、常は痴愚は終る
 尋常の人、於ての塵世を避くる、即ち魔界は墮落するあり
 夫れ何れ爲す事あらざるより、むして惡を爲す事を習ふに至る
 秘密の最小部分を明かしたる者の最早其他をつゝむ力あり
 國家の顛覆し術藝の衰頹す然れども天然の萬物の死せず
 神明は對して信心を失ふ者、既に人は對して信用を失へり
 此下界は極樂園あり、幸福の唯基處の彼方、存するあるのみ
 何人も睡り、穢れ、遊ひつゝ、卓越する速記器技手とあるものあり
 凡る世間、自身の心は感ずる處の者程誠實ある者、あらす
 人生の航海は於ての道理之が羅針盤たり、情欲之が大風たり
 人小過あれ、合容して之を忍び、人大過あれ、理を以て之を責む
 我れ最も正しき戦争より、最も正しからざる平和を取らんのみ
 夫れ人、與ふるは樂しき物を以てせしむて、適當の物を以てす

汝の拳を以て蓄薇の刺を撃たの最も痛む者の汝の手のみあらん
 頭上は落掛れる滅亡の通例警戒の語を以て驅除し得べきも非ず
 瑣少の事の善美の功をなす而して善美の功の瑣小の事はあらず
 眞實が此世は爲す益の其れの外見が此世は爲す害より少きし
 國家の最も有用ある人の誰か、勇健剛邁にしてろれ不屈ある者歟
 有用技術の母の必要は、缺乏は、あり、美術の母の餘力は、豊富は、あり
 善人も悪人も其見掛け程の善人も悪人もあらず又悪人もあらず
 戰場に在て勝を得る人も歴史に入りての必ずしも勝を得るも非ず
 我が心性の法則の外又更は神聖ある法則あるものあるべきの理あり
 老人の心眼を以ても肉眼を以ても共に遠く離れて最も遠く物を見る
 初めは完全ある者あるなし漸次進歩するのみ一切の新法又此の如し
 一の朋友あり又一の敵をも有せざる者の才力もあらず勢力もなき凡人のみ
 加へて其の性徳を養ふは、其の才力もあらず勢力もなき凡人のみ
 養ふは、其の才力もあらず勢力もなき凡人のみ
 養ふは、其の才力もあらず勢力もなき凡人のみ
 養ふは、其の才力もあらず勢力もなき凡人のみ

○各國速記の情況

吾が尊敬する讀者よ必用ある外國速記の情況を記し得るの擢拔ある
 語學者たる米國シカゴ府のハーマン、レーンホルト君よりて集めら
 れ且つ譯せられたる者より援率する者ある事を知られん事を望む
 同氏の各國語はストルツエ氏の速記法を反譯したる有名ある速記者
 あり、下記の者の最新の公刊書又の各已の適信より得られたるものな
 り
 (アルゼンチン共和國) ボナスアイリス (Buenos Ayres) に於ての上院及び
 代議院の千八百五十六年以來速記的は通信せられ各十名づゝの速記
 者の兩院に於て用ひられ此内十名のアイザック、ピットマン氏の流派
 として六人のマルチ氏の流派他のキアリチ、マッレル氏の方法を用ひ
 居れり而して其月俸は一ヶ月六十弗より百弗迄の差あり然れども尙

るの他官廳の職務等よりて其の収入を増すものあり上院の速記長の
 ニミリオ、インゼーラガ氏と呼ばれ千八百八十年に於てポナス、アース
 に於て速記協會を設立したる人あり此の協會の年々刊行の雜誌を有
 し當今八十二人の會員ありと云ふ當國に於て唯ポナス、アース市
 に於てのみ速記術を二三の教授に於て授くと云ふ
 (ベルキエーム) 速記者のベルギーの議士會に於て千八百三十三年以來
 用ひられたるあるあり當時の官廳速記者の十二名にして各千五百フ
 リリスより三千五百フロリン迄の年俸を受け居れり速記ある者の唯
 僅々の人士よりてのみ知らる日耳曼速記協會の(ヴァーヴスル)に於
 て現存せり
 (ホルトス、ラリス) 當時より唯ベルギー、ベルン、下同氏の法を
 單にゲール、ベルスト、去る氏の法のみ行ゆる、が如し(ビエツナ)に於ける
 國會ホヘシア、ポリツシユ及び他のスラボニック言語の通し得べき州

會より凡て(ゲル、ベルス)の方法にて速記通信せられつゝあるあり速記
 の一般に擴かり各種の學校に於ても教授し殊に海軍學校に於ても教
 授しつゝあるあり
 (英國) 速記のアイザツク、ピットマン氏の方法即ち記音學の英國に於
 て最も多くの商業中學に於て教授せらるのみならず尙又文官に於け
 る試験科目の最重要なる者ありとす英民の速記を學修せしめざる學
 校の商業學校の價值なき者ありとす而して速記的書記よりて米國
 事務家が爲す如く已れの職務を輕め且つ敏捷にする爲め一般に
 用ひられたるあるなり當國に於て記音學の擴張に従事しつゝある者
 の速記會(Phonetic Society)にして該術上達の証明狀を有する二千四百
 名の會員よりて組成せり龍動市にありての斯のとき會合三個
 あり是等の會はての年々速記者の試験を爲しの上達を証明し技術
 の証明狀を與ふる事あり記音學的文學とも稱すべき書(パス)ある記

音會は於て印行せらるゝ者あらん乎この中四十冊の全クアイザン、
 ピットマン氏の著述に係り中十八の全体記音學的文字を以て記載せ
 られつゝあるあり此中重なる者まで(記音術教師)の今日迄九十萬冊を賣
 却し袖珍拔翠の五十五萬部を賣捌きたりと云ふ而して前者の賣れ高
 の年々五萬部にして後者の二萬部ありと云ふ龍動市よりてハ八個
 の速記雜誌全ク記音學よりて發刊せらる此の中アイザン、ピット
 マン氏の速記週報の一萬五千の購讀者を有すと云ふ
 速記の種々ある方法の國會及び新聞通信者の内著るしき流派を存
 す速記の最新報告は依れり龍動市於て二百九十一名の職業的速記者
 の中百三十四人の(アイザン、ピットマン)氏の方法を用ひ居れり、テ
 ロカール氏の方法を用ひつゝある者八十九人がル子、ル氏の方法を
 用ひつゝある者三十五人、グワイニス氏の方法及びマツオアリス氏の方
 法を用ひつゝある者各八人、ゴロー、及びグラハム氏の方法を用ふる

者各三人、クライヴ氏及びモリス氏の速記各二人、他の各自の方法を
 異よせる速記を用ひつゝあるあり
 千八百八十一年六月十四日龍動市於て會合せられたる速記大會の結
 果として(速記)と題する雜誌を發刊し速記大協會ある者を組成し
 第一回の會長は國權愛國計協會員、ゴ、子リニス、ウオルフオル
 ド君を推載せり全君が會長たりし二年間其會員の總數ハ百五十名
 へ達したり現在の會長ハ恐らく世界に於て最も有名なる技術者ある
 速記技術者たる小リマス、ア、氏はあり
 (佛國)佛國は於る速記の第一着ハ千六百五十二年ハ公刊せられる速
 記即ち Methode Pour écrire aussi vite qu'on parle(話説を神速に書取る法)と
 題したる著書なりとす然れ共今日までハ唯だ地方書籍館中僅かハ一
 部を藏するのみにしてこの方法たる世人ハ全く知られざる者ありと
 す降りて千六百八十一年ハ及びスコットランド人チャールズ、アロイ

スオムセー氏の *Enchiridion* (短記術) と題したる二巻を持ち來たり此方法たるや其文字の實は千六百三十年及び千六百五十四年及び於て英國に公けよせられしウィット氏及びリッチ氏の英法を移し來りたる者あり(記者云ふ同氏の千六百五十四年と云へど記者が調査する所は千六百四十六年及び千六百四十七年と思へり) 又千六百四十六年及び千六百四十七年の四十七年なり参照の上再記する事あるべしこれより種々の羅典及び佛國板が引繼ぎて出版せられたる千七百七十六年及至り於て二年前、デ、ツ、エ、オ、子、ツ、リ、氏、の短記術の或る方法を發明し是れより後ち二年及び一部の著書をもて世上に公表したるは是れより後ち變化進歩し著者兼考案者たる同氏の存孃と共に千七百七十九年、千七百八十二年、千七百九十二年、千八百〇二年、千八百一十七年及び於て改板せられたり、此方法の能く他人をして解得せしめ得るも未だ速度の点に於ては完全と云ふべからず、千七百九十二年及至

りて多數の英書の翻譯者あるテオドシ、ロ、ル、チ、ン、氏のサミエール、テ、ロ、ア、ル、の千七百八十六年出版の方法を英語より佛語の速記に適合すべき様を組成したり、バール、チ、ン、氏の出版は意外の公評を得て數板より上りたり、コ、シ、ン、デ、ペ、リ、エ、ン、テ、ア、ン、氏、及び、ヒ、ツ、ボ、ル、テ、プレ、ソ、オ、ス、ト、氏、等秘密にして速讀を得るを目的としてテ、ロ、ア、ル、ベル、チ、ン、氏、の方法を改良したり、ブレ、ソ、オ、ス、ト、氏、の子音は、テ、ロ、ア、ル、氏、の文字を引き繼ぎたれ共初字(首府より非らず)及び語尾の文字を新たに制定したり、同氏の方法は千八百二十八年及び第一板を出版し遂に七板を出す迄に至りたり而して終は千八百三十年官廳に於て是れを用ふるに至れり現今の速記者の半は尚ほ此の方法を用ふる者也、コ、シ、ン、デ、レ、ビ、ア、ン、氏、の千八百〇九年及び、テ、ロ、ア、ル、氏、の組織の變化を企て且佛語に於て屢々起るべき語を尤も簡單なる符号によりて顯やすの方法を採り其他二三の變化を爲したり、同氏の編譯の

千八百十五年、十七年、二十二年、二十五年、等は於て改板せられ好結果を奏したるが如し此文字のアイム、パリス氏よりて輕少の變化を受けたり而して此の方法の(ボスノット)及び千八百十四年(ダント)氏によりて羅典語は應用せられ官廳速記主任の(子リユス、ステーガル)氏によりて和蘭語は應用せられたり國會速記者の過半数の(コ子ン、デ、ブリコヒアン)氏の方法及び(ボスト)氏の流派あるが如し、(ミノー)ツク氏の巴黎は於ての學校教師にして千八百三十二年、その方法を發明して數板を公刊せり此の方法の書くは簡易なりと雖も迅速ならざるが如し又(デユプロイ)氏の方法も然るが如し

(獨逸國) 下記の文章はツレスデッある王室速記學校にある大博士ゼー、ダブリュ、ツァイビツグ氏によりて書き送られたるものあり同氏の速記は就き數多の公刊を爲し且つ或る國語よりて著作されたる速記歴史の中よりて尤も完全なる著書をあしたる有名なる人あり

日耳曼國は貳種の速記あり即ち千八百十七年より於てフランツ、グザール、ゲーベルス、ペーグール氏より發明されたる速記にして該法は其後千八百五十四年より千八百五十七年より於てツレスデンある王室速記協會の補足より依り完全したる者にして其他の同氏の上より根基したる Wilhelm Stelze 氏との二あり此の後千八百六十年より於て(レオポルド、アレンド)氏(フワイエツト)氏の佛法速記より移流したる速記書を公けましたり此の時より至る迄(ゲーベルス)氏の方法は其原理より於ては常に一定不變ありしも(ストルツ)派の時より於て既に新舊の兩派に分かれたり而して尙此の二派の中より多くの小分派を含有せり即ち(ヴェルトン)氏(の學校速記法、アルゲール)氏の單線速記法等の如し、(ナレン)ト氏の方法も亦等しく(セーラール)氏の速記法(レノ)ヌン氏(の速短記法等)に分かれたり而して速記の新法ある者の從前の速記法の隔伏するの時代より於て再現するの狀は恰かも不倒翁の一起一伏するが如し次

表の以てゲルヘルス氏の流派の現状を知るは足らん乎
 速記組合の速記組合員數は四百十三ヶ所、特別會員數は
 通信兼名譽員、千九百九十七人、特別會員、千九百八十六人、
 此中速記組合總數三百〇九の日耳曼帝國内に存じて千五百七十二人の
 正現會員千五百〇九人の通信名譽員千三百四十四人の特別會員を
 具備し各國に傳播せり、
 本ルツエ氏の速記法は三百四十の會合を有し六千三百四十七人の
 會員を具へ平均一年間を教授せらるゝ人員四千五百六十人として英
 國語を反譯せられたる者三、ハシガリ語を反譯せられたる者二、羅西亞
 語を反譯せられたる者一あり、英語をて教授せられたる者九十二人、瑞西
 語をて二十八人、羅西亞語をて百七十九人、和蘭語をて三十一人、佛語を

て五人あり而してストルツエ氏の方法は(ブルシア)國に於て二十六の
 高等學校及び海軍學校に於て用ひられつゝあるのみならず又(ハンカ
 リア)國の學校にも用ひらる而して此の方法は多く官廳的に使用せら
 るゝが如し即ち日耳曼、ブルシヤ、ハンガリヤ、及び瑞西の國會及び羅西
 亞政府に於て此の速記を用ひつゝあるあり
 アンソンの方法に千八百八十一年より千七十五人の學生を五百七十
 二人の秀群者ありと云ふ
 (デラシル國) 當國に於て公刊せられる最初の方法は千八百五十
 二年ウエルノ氏より翻譯せられたるテローロアル氏の方
 法ありとす同氏の令息の(ペーイア) (即ちサン、サルツァドアー)の
 事ありと於て會議所の速記者たり此の時より當り政府の一の發刊を有
 せざるを以てジョーナル、ド、コンマニシオ即ち商業新紙を托して此
 の受負ひを爲さしめるの速記物を公けよしたり然れとも千八百五十

七年に於てリヨデシア子口新報は夫の受負を委ねたり然るに此の新誌の速記物を即行する爲めは毎月一千弗の過分ある報酬を政府に要求したる爲め直ちに *Corcio Mercanti* に迄委託する事となれり而して今や反てその最初を受負ひたる商業新紙によりて公けよせられつゝあるあり、地方州會も當今の通信せられて其速記物を各州の新聞紙に出す事あり、商業新紙の速記者は三名にして各三千(ミルリ)の年俸を受くるの外州會よりて月々八百七十(ミルリ)の俸給を受け尙其他の速記を引受くる事もあれば速記者の中より一万二千ミルリの年額に相當する者すらありと云ふ、現在の委員會に於ける速記者は六名にして委員會速記録の(國會速記録)の名稱の下に發刊せられつゝあるあり

(バルガリア國) 博士ビーセンセツク氏の千八百七十八年クロイミアン語にて(ゲイベルス)派の速記法を反譯したりし、后ち直ち同氏の委

員會の速記者とされり而して該速記の專用權を政府より是認したれば *Jugoslavian skij stenograf* と題する速記雜誌を刊行したり此の時以來博士ヒーツエンセツク氏の(リフイア)に於ての高等學校に於て該術を教授したり

(デンマーク) (コーペンヘーゲン)に於ての委員會は十五人の速記者と六人の校正者を依りて通信せらる速記長の(ゲイベルス)派の速記法反譯者たるゼーデッスー氏あり然れども是等の速記者は不熟練にして斯く多數を要する者にて人民も亦一般速記に冷淡あり一千八百八十三年に教授せられたる人は全國を通トて唯廿五人に過ぎざると云ふ(希臘國) 希臘語に依りて公刊せられたる最初の方法は千八百五十三年 *Panos Heliponlos* 氏あれども甚だ好結果を呈せざりし、其後日耳曼の速記者 *Joseph mindler* 氏千八百五十六年より於てゲイベルス派の方法を翻譯したり而してアゼンスに置く希臘地方立法官廳の速記者として使用

せられたり同氏千八百六十二年に於て(パトラス)に於ける速記の會合を建立したれども遂に不幸も同氏の死亡と共に此の會合の消失したり其後(ブラユス)氏に依りて(ミンドラア)氏の著述の幾分の變化を以て公刊したる者は好評を得大に同志者を會合したりミンドラール氏の令息も同トク地方立法官廳の速記者たり此の官廳速記を除きては當國に於ては殆んど速記の何たるを解する者無きが如し

(ハンガリー) 當國に於て最初使用せられたる(ポーソス)氏に依りて(テローア)氏の英法の翻譯なり、千八百六十三年に於て(イヴァン、マウイット)氏は(グーベルス)派の翻譯を公けましたり而して其後直ち(アドルフ、フエンニ、ウエツシー)氏(ハストルツエ)氏の方法を翻述したり而して同氏と其の門弟(コンイ、)氏とは國會に於ける速記主任とあり當時速記者の數は十五名にして此の中十名は(ストルツエ)氏の方法他の五名は(グーベルス)派あり而して共に協會を有し生徒を教授せ

り平均一ヶ年の生徒は三千五百名より四千名の間もあり(ストルツエ)派より刊行する雜誌を(Magyar Gyorsiro)と呼び(グリンザー)氏の刊行する處たり(グーベルス)派の刊行する雜誌を(Gyorsiraszati Lapok)と呼び發行者(ブタ、ピスツ)に於ける(イヴァン、マース、グイット)氏ナリ

(伊太利國) 委員會及代議士會は十三名の速記者と六名の訂正者とよりて通信せらる此の中自流を用ふる(ムール、グー)君を除くの外は皆テローア)氏速記の適應者たる(デルビー)氏の方法を用ふ、千八百八十三年以來上院にて(ミチラ)君が發明する速記器よりて速記せられ其の結果は甚だ明らかく確實に容易に通信せられたる事速記法の企て及ぶ所に非ざるあり、當國にて(グーベルス)流は僅かに一つあるのみ當時協會の拾貳ヶ所ありて四百三十七人の會員を有し一千〇三十二人を教習せしめ居れりと聽く、最後の統計は實に速記器の益々進歩したる事を証明せり以前にありては速記術雜誌の七個の刊行

を有したりしも今は僅かゝ參個も過ぎざるのみ
 (オスカイ、グレコ)君は海軍に於て速記の實用に就きて價值ある經驗を爲したる人あるが此の事實は遂に同氏をして其持説を海軍や務局に提出せしめたり其結果としては速記法の文字に據りて通知(合圖)を與へ又船艦に告知したる物貨を運搬するの便に供せり、記音協會は千八百八十三年の終りに羅馬市に於て開設せられたり其會長は(アルセスト、ザナ)氏あり而して同會開設の時は(アイザック、ビットマン)氏自ら當地に出張したり

(子ザイテンド)(ハグロ)に於ける國會速記者は十二人にして二万三千フロリン即ち一万二千五百圓の費用を要す而して多く當國に於て用ひらるゝ方法は(テロー、アール)の速記法を反譯し且つ速記歴史を著述したる速記長ステガー氏の方法ありとす千八百六十九年より於て(グーベルス)派は(リェットスタツア)氏に依りて公にせられたり、(ストル

ツエ)氏の方法は千八百八十一年より於て(ハイマン、レインボルト)氏によりて反譯せられ既ち或る再板者を有せり此方法は(シリ、ロットマン)氏に依りて(アムスターダム)の市廳に於て教授せらるゝ又ステガー氏も教授を採れり日耳曼速記協會はアムスターダムにあり

(ノールウエー) クリスシアナに於ける國會は速記長(キヤペレン)君によりて通信速記せらるゝ而して同氏は速記術の學校を開けり同氏の用ひつゝある方法は(ポルダン)氏に依りて(グーベル)法の反譯あり
 (ポーチュエガル) 千八百〇三年パツリシオ、ピント、ロドリゲス氏によりて(テロー、アール)氏の速記法の反譯が公刊せられたり千八百二十年に於て始めて國會の開設ありし時西班牙の速記者マルチ氏はリスボンに聘せられて該術の教授を命じたり千八百二十二年より於て同氏は裁判所に於ての速記者となりたり而してその後同氏の令息(ミギユエル、マルチ)氏之れに繼けり近來速記術の廣く用ひられ且つ諸官廳までも

實用せらるゝに至りたり

(ルーマニア) (バツカールレスト)に於ける上下兩院の速記局員六名よ
て通信せらる而して速記長の(ゲーベルス)氏の方法を譯述したる(エ、
スツィ子スク)氏あり而して當國に存する速記雜誌の *Stenographu Româ
ni* と呼ばるゝものありとす而して尤も當國に於て、盛力ある偉大ある
速記法の(タオンダー)氏の佛法ありとす

(羅西亞) 公刊せられたる速記の初法の十八世紀の末代に於て *Baron
von Volke* 氏によりて完全されたり此れより多くの繼續者ありしと雖
も充分ある成效を見る能はざるが如し千八百六十四年よ於て時の文
部大臣千五百ルビーを懸賞して最良の速記法を得んとしたり爰よ於
て平オルチン氏のゲーベルス氏の方法を翻譯し其他(トリアナウ)氏及
び(ツァイピン)及び(メツサー)氏によりて(ストルツエ)氏の方法世よ
顯はれ出でたり而して政府の該懸賞金の(ゲベールス)及び(ストル

ツエ)兩氏の方法よ折半せられたり此の勵獎以來數多の著書の多く兩
者の中よあるか如し速記術の(セント、ピーターズブルグ)の高等裁判所
及州廳の重要市よ於て用ひらる
キーヴ市よ於ては(スタニスラウス、ツラスキー)氏の會長を以て速記學
校を建設せらる

雜誌は前記の(ツラスキー)君よよりて發行せし(ストルツエ)(ポールン
ン)派の文字よて印行せらる、*Stenographie messenger* のみ、純粹ある(ス
トルツエ)派よての年々(カニコッフ)よ於て年報を發行せり

(サーヴィア) サーヴィア語よ迄(スト、ルツエ)派の翻譯の千八百六十
六年よ於てミロバツク氏よよりて公刊せられ其翌年ヨッゼーヴィ
ツク氏よよりて又他法を刊行せらる而して前譯書の甚だ其の需用僅
少ありし何とあれば當時同國の土耳其機の一州たりしものあればあり、
一千八百七十六年よ於て當國の獨立して一王國と成り國會が組成せ

られたる時よの速記術を學習し其國語に適應せしむる爲めオースタ
リアに迄一官吏を派遣したり而して該官吏の(ツヅナ)に赴むき(ゲ
ベルス)の方法を勉強し其の歸國後(ベルグランド)に於て四名の學生
を教授し此れを上下兩院に用ひたり而して當國にありての速記の甚
だ不振の状況なり

(西班牙) 千八百〇二年に於て政府の Escuela de Taquigrafiaなる速記學校
を起して生徒を養成したり而して該校にて教授する速記法の同じく
(ボッラ、マルチ)氏の流派なり官廳集會の官報にて(Diario de Cortes)會議の
後に刊行せらるゝあり該事業に關して政府の年々二十万リールの費
用を支出せり近來に至り速記の一般の人民及び學校の内は導びかれ
つゝあるあり此の中尤も普通は用ひらるゝの(カリグリー、マリル)の方
法ありとす當國の貳個の速記協會あり一つの(ボセルナ)にあり一
つの(ヴァレンシア)にありとす前記の協會の(コッポネン、シオン、タキグラ

フィカと呼ばれろの會長の(ケンヨアト、シヨシー、カル、ボ、ワイ、マク
ンヤ氏)として官廳速記者あり且つ速記雜誌を發刊せり
此の他(デュプロイ)派(ストルツエ)派(ゲーベルス)派等の多少の會員を
有せり

(瑞典) 當國に於て速記の導びかれたるの近來ありと雖も速記の非常
の長大足を以て進歩したり即ち(ゲーベルス)派(ストルツエ)派及び(ア
ランド)派の並び用ひらる國會に於ける兩院の速記的は通信せられ一
院よの二十二名他よの二十九名の筆記者を用ふ而して俸給の開期間
日給二弗五十仙の外は五十弗の報酬手當金を與ふ總計一人は付金三
百弗を支拂ふ手筈ありと聽く速記長は一日は三弗として國會閉鎖後
二週間の猶事務整理の爲めと云て其報酬を受け得る者にて當國政府
が速記の爲めは費やす所の費金の六万クローンとす而して前記せる
五十一人の悉く速記者の非ず十七人を院くの外の書記及び清淨掛

ありとす
當國は於ける速記協會の重なる者の三ヶ所にして(フィンランド)(ヘルシンフォオルス)に在る者及び(グーテボーク)及び(アツブサラ)に於ける者とす

當國は於ける速記の流派中尤も行ゆる(ケーベルス)流にして(ストルツエ)流の之れは次ぎ(アノド)派尤も勢力なきが如し
(スウイツランド)當國は於ける程速記の必要を感ずる所なく又盛かる所のなきが如し然れども國會は於ては速記者を用ひざるあり何とあれば其効用は堪へざればあり何を以て堪へざるやと云ふは當國は於ては日耳曼語佛蘭語及伊太利語の三個國語が用ひらるを以て若し速記者を用ふれば非常なる費金を要すればなり然れども唯(ペーシ)市廳のみ一人の速記者を雇ひ居れり六十五の(ストルツエ)派の協會千六十五人の會員中八百九十一人の活動しつゝあるあり(ケーベルス)派の

七個所の協會を有せり當國學校塾舎の速記の教授を志すもの多し而して是等の多く(ストルツエ)派ありとす然れども當國は於ける速記器の勢力の遙はストルツエ氏の上に出づ當國は於ける速記雜誌(ストルツエ)派にして十部速記器派の十七部の雜誌を有せり
(土耳其)當國の千八百七十六年を於て組成せられたる帝國皇族會議の速記を報道するの目的より起され速記の公教所長(ボンチニ)君の開期中二萬二千ピアスツルの俸給を以て速記長となりたり此速記文の El Djewâib 及び Valit よりて報道せられたれども此速記(スウイツ)ツルランドは於ける如く各國語が其の速記上は顯ゆる、事の困難より遂は次年より廢せらるゝに至れり然れども千八百八十三年十二月に開會せられたる新國會の四名の速記者を用ひたり控訴院及内閣官房は於ては速記者を用ひたりしも近來の速記器は改めたり以上は陳べたるの内一つも民間に實用せられず又一般に不振にして一つの公

刊雜誌すら有せざるあり
(ヴェネチヤニエラ) 七名の速記者、州會に於て用ひらる而して其等の皆(マ
ルチ)の方法あり教授に二ヶ所あり即ち Colegio Mercantil 及び Colegio de
Vargas ありとす

米合衆國

英國に於て最も早き發布以來合衆國に於ての或る度合迄實用せられ
たり此の時より當り(テロロアール)及び(ガリ子ル)の原著より基つきたる
米法速記の共和政体の始めより存在したりき然れども其目的の大中
學校に於て生徒に教授する一科たるは過ぎざりし然るは千八百四十
五年に於て記音學の入り來るは及びて非常の勢力を以て各地に傳播
しアンツリウス及びポイル氏の盡力により猶一層の擴張を見るに至
れり而して此等の術の各種の學校に於て行われ且つ甚だ短かき期限
に於て成效せしむ當時米國にあり有名の速記學校の三百七十五校に

して卒業迄の經費の各々差ありと雖も大抵卒業迄は六七十弗を要する
あり例之のカルフォルニア州ナパナル(スコヴェイル)の速記學校の一課
二十五仙づゝあり桑港の(マンソン、アンド、マリーシユスフオノグラフィ)
を教授するエフ、イ、ツレムパト氏の一月十弗を拂ひしめ(イリノイス)
州ブルミントンにあるイヴァー、ダリー、シチー、ビッチ子ス、カレンツの
卒業迄六十弗、ポーツなるホールムス速記事務學校の百弗を(アルダ)
あるI、B、R、アルノルド氏の無代にて教授しニューヨーク州イサカあるウ
イツコフ氏の速記器學校の一年百弗ありとす又盛大なる學舎の日々
五六百人の登校者ありオハイオ州デイトレある、ミヤミ商業中學にて
速記を修むる者常は二百の上に出づスクーパー學校の平均三百人の上
出でポストンある夜學高等學校にて無代にて教授し其の生徒の數百
七十名あり又(ヴァルボライソ)にある、ノーザン、インデアナ、ノーマル、ス
クール)の十週間三弗半にして二百五十二人を越ゆ又(デンツァー)あ

る(デンヴァール)速記器學校の千八百八十年の設立にして(フランク、シ、ラスク)氏此れが校長たり二十四課毎に二十弗の教授料にして七八百人の生徒常々絶ゆる事なし教師の數に只二人のみ嘗て調査したる時より六百五十四人あり此内晝課の三百七十二人夜課の二百八十二人通信教授七十人此の内晝課二百十人の男子百六十二人の女子夜課百五十人の男子百三十五人の女子ありと云ふ合衆國內に置ける速記學校の總數は昨年の調査によれば三百七十五校にして其内速記器械を據る者二百卅九速記術教授の者百三十六校あり千八百八十八年より器械を用ひたる者三分の一ありしも僅々數年間より速記器械の擴張したる事實は偉大ありと云ふべし

日本

日本に於ける速記の事予自から詳記するを好まず何人かが記したる公平の記述あらば予の可成採擷して記載せんと欲すれども未だかゝ

る出版もなき様あれば少しく記し置くべし然れども我國の事の世人自から此れを知るべけれの詳記する程の事もなし

明治八年 島山正成氏 速記の必用を説く

明治十五年 源 綱紀氏 速記法を發明すと稱す

明治廿三年 本年日本に議會を開設しその言論速記を速記者に托す

明治廿三年 速記器の發明專賣特許を受く

明治廿四年 日本懷中印字器米合衆國の特許を受く

速記全書終

本書印刷後本著者より向け閣龍世界大博覽會委員長より速記者世界大會書記官長ブローン氏の手を経て「日本報告委員」を囑托の來りたり其詳細の各新聞紙より掲出しあれは讀者或は知了せらるゝ事あるべけれど世界大會の形況を知得するに足るべき者あるを以て讀者の参考を資する爲め其二三を左に掲ぐ

●万国速記者

世界大會

○日本

(明治廿五年十月十九日)

●速記者世界大會の明年閣龍萬國大博覽會開期中に開設する事の兼て囑ありしが今回彌々世界博覽會委員長より撰定せられたる大會の一つとして明年六月下半期即速記者の閑暇ある且つ會合し易き時期を撰み記念技藝官殿より於て開設するに綱領委員として會長よりゼー、エル、ベン

子ツト氏副長よりアイザック、エス、デメント氏書記官よりダン、ブローン氏其他二氏を特撰の上任命せり該大會の日本報告委員藤木顯道氏より委託したりしを藤木氏の日本速記者より關する一般の事項を報道する等あるを以て該大會より列せんとする人の勿論速記者世界大會常會員(毎年若しくは隔年開設するを常とす)たらんとする人の其住所姓名及び其速記に關する經歷を詳細に藤木氏より報告せり同氏より大會に報道すべしと云ふ又大會に列し得べき人の(一)一般速記者(立法、官廳及び新聞通信者)(二)速記教授者(發名者著者、製造者、公刊者、教師)(三)速記寫字生(四)印字機(速記器)非ず働作者製造者及び支配人の四種より成り又此大會に於て討議すべき綱領(第一)速記術過去の發達及び進歩、現狀、及び未來に於ての方法を世界に廣く通告する(第二)速記の熟練したる職業として實際の技藝間(第三)速記の位置を確定する事(第四)教育上の補助として速記の大進歩を顯しすべき(第五)宗教政事及び商業界に於ける速記一般の需用を高むべき(第六)綴字法改良及び各萬國語に於ける運動を變化を與ふる關係及び萬國語の書記に於て印

字機のみを使用することを奨励する方案
等ありと聞く

○東京日々新聞(同日)

●萬國速記者大會 明年開龍萬國大博覽會
開期中は開設するよし、豫て聞く所ありしが、今回彌々世界博覽會委員長の館に於て開くこと、あり博覽會委員長の己の其の會長は、エール、ベンツト氏副會長は、アイザック、エス、ヂメント氏記は、ダン、ブローン、其他二氏を特撰し又其日本報告委員は、藤木顯道氏を擧げたり依りて同大會を列せんとする人の勿論萬國速記者大會常會委員たらんとする人の其の住所姓名及び其速記に關する經歷を詳細に藤木氏に報告すべし然れば同氏より大會に報道せん又大會に列し得べき人は、(一)一般速記者(二)速記教授者(三)速記寫字生(四)印字機(速記器)非ず(使用)者(四)種ありして討議すべき綱領(第一)速記術過去の發達及び進歩現狀及び未來に對するの方策を世界に廣く通告する方案(第二)速記術を以て熟練を要する實用技藝の一と認めしむるの方案(第三)教育上は於ける速記の功用を顯すべき方案(第四)宗教政事及び商業界に於ける一般

○自由(同日)

●世界速記者大會 明年開龍萬國大博覽會開期中は開設する事とあり同會委員長の該大會の日本報告委員を藤木顯道氏に委託したりし、日本人の速記者は、世界大會常會委員(毎年若しく隔年とする人の其住所姓名及び其速記に關する經歷を詳細に藤木氏に報告せば同氏より大會に報道すべしと云又大會に列し得べき人の(一)一般速記者(二)速記教授者(三)速記寫字生(四)印字機(速記器)非ず(使用)者(四)種ありして討議すべき綱領(第一)速記術過去の發達及び進歩現狀及び未來に對するの方策を世界に廣く通告する方案(第二)速記術を以て熟練を要する實用技藝の一と認めしむるの方案(第三)教育上は於ける速記の功用を顯すべき方案(第四)宗教政事及び商業界に於ける一般

○每日新聞(同日)

●速記者世界大會 明年開龍萬國大博覽會開期中は開設する事、速記者間よりありしが、今回彌々世界博覽會委員長より撰定せられたる大會の一として、明年六月下半期即速記者の閑暇ある且つ會合し易き時期を撰み、記念技藝宮殿に於て開設すること、あり世界博覽會委員長の指揮に依り、該大會の日本報告委員を藤木顯道氏に委託したりし、藤木氏に日本速記者に關する一般の事項を報道する等ありと云ふ

所姓名及び其速記に關する經歷を詳細に藤木氏に報告せば同氏より夫れ、手續を爲す等ありと又大會に列し得べき人の(一)一般速記者(二)速記教授者(三)速記寫字生(四)印字機(速記器)非ず(使用)者(四)種ありして討議すべき綱領(第一)速記術過去の發達及び進歩現狀及び未來に對するの方策を世界に廣く通告する方案(第二)速記術を以て熟練を要する實用技藝の一と認めしむるの方案(第三)教育上は於ける速記の功用を顯すべき方案(第四)宗教政事及び商業界に於ける一般

○大日本教育新聞(同日)

●速記者世界大會 明年開龍萬國大博覽會開期中は開設する事、豫て聞く所ありしが、今回彌々世界博覽會委員長より撰定せられたる大會の一として、明年六月下半期即速記者の閑暇ある且つ會合し易き時期を撰み、記念技藝宮殿に於て開設すること、あり世界博覽會委員長より、速記部綱令委員として會長は、エール、ベンツト氏副會長は、アイザック、エス、ヂメント氏を特撰し、藤木顯道氏を擧げたり依りて同大會を列せんとする人の勿論萬國速記者大會常會委員たらんとする人の其の住所姓名及び其速記に關する經歷を詳細に藤木氏に報告すべし然れば同氏より大會に報道せん又大會に列し得べき人は、(一)一般速記者(二)速記教授者(三)速記寫字生(四)印字機(速記器)非ず(使用)者(四)種ありして討議すべき綱領(第一)速記術過去の發達及び進歩現狀及び未來に對するの方策を世界に廣く通告する方案(第二)速記術を以て熟練を要する實用技藝の一と認めしむるの方案(第三)教育上は於ける速記の功用を顯すべき方案(第四)宗教政事及び商業界に於ける一般

とする人の勿論速記者世界大會常委員(毎年若しく隔年とする人の其住所姓名及び其速記に關する經歷を詳細に藤木氏に報告せば同氏より大會に報道すべしと云又大會に列し得べき人の(一)一般速記者(二)速記教授者(三)速記寫字生(四)印字機(速記器)非ず(使用)者(四)種ありして討議すべき綱領(第一)速記術過去の發達及び進歩現狀及び未來に對するの方策を世界に廣く通告する方案(第二)速記術を以て熟練を要する實用技藝の一と認めしむるの方案(第三)教育上は於ける速記の功用を顯すべき方案(第四)宗教政事及び商業界に於ける一般

八十五年紐育パフアロイニ千八百八十七年龍動ニ千八百八十九年巴黎博覽會ニ千八百九十年パリヴアリア國ムリエツクニ千八百九十一年プルシヤ國ベルリンニ開き而して明年ハ又々博覽會ト共ニシカゴニ開く事トありたる者ありト

○大坂朝日新聞(廿三日)

●速記者世界大會 明年の市俄高大博覽會ハ六月下半期即速記者の閑暇ニして會合シ易キ時期を撰ヒ紀念技藝宮殿ニ於テ速記者世界大會を催ハス趣博覽會委員長より通知あり日本報告委員ハ藤木顯道氏ニ委託ありしハ付同氏ハ日本速記者關する全般の事實を報道するよし

○京都毎日新聞(廿三日)

●速記者世界大會の開設 全會ハ明年閣龍方威大博覽會開期中ニ開設するトノ事ハ速記者間ニ噂ありシ事あるガ今回彌々世界博覽會委員長より選定せられたる大會の一として明年六月下半期即速記者の閑暇ある且つ會合シ易キ時期を撰ヒ紀念技藝宮殿ニ於テ開設することありたる由而して世界博覽會委員長の指揮ニ依リ該大會の日本報告委員ハ藤木顯道氏ニ委託ありしハ付同氏ハ日本速記者關する全般の事實を報道するよし

託せしハ付全氏ハ日本速記者ニ關する一般の事項を報道する旨ありト云ふ

○仙東北新聞(廿六日)

●速記者世界大會 明年閣龍萬國大博覽會開期中ニ開設する事ハ速記者間ニ噂ありしが今回彌々世界博覽會委員長より選定せられたる大會の一として明年六月下半期即速記者の閑暇ある且つ會合シ易キ時期を撰ヒ紀念技藝宮殿ニ於テ開設することあり日本報告委員ハ藤木顯道氏ニ委託ありしハ付同氏ハ日本速記者關する全般の事實を報道する旨ありト云ふ

○山形日報(廿一日)

●速記者世界大會 明年閣龍萬國大博覽會開期中ニ開設する事ハ兼て噂ありしが今回彌々世界博覽會委員長より選定せられたる大會の一として明年六月下半期即速記者の閑暇ある且つ會合シ易キ時期を撰ヒ紀念技藝宮殿ニ於テ開設することあり日本報告委員ハ藤木顯道氏ニ委託ありしハ付同氏ハ日本速記者關する全般の事實を報道する旨ありト云ふ

○因伯時報(廿一日)

●速記者世界大會 明年閣龍萬國大博覽會開期中ニ開設する事ハ兼て噂ありしが今回彌々世界博覽會委員長より選定せられたる大會の一として明年六月下半期即速記者の閑暇ある且つ會合シ易キ時期を撰ヒ紀念技藝宮殿ニ於テ開設することあり日本報告委員ハ藤木顯道氏ニ委託ありしハ付同氏ハ日本速記者關する全般の事實を報道する旨ありト云ふ

を特選の上任命せり該大會の日本報告委員ハ藤木顯道氏ニ委託したりしハ付藤木氏の日本速記者ニ關する一般の事項を報道する旨あるを以て該大會ニ列せんとする人ハ勿論速記者世界大會常會委員(毎年若クハ隔年ニ開設するを常トす)にらんとする人ハ其住所姓名及其速記者の経歴を詳細ニ藤木氏ニ報告せり同氏より大會ニ報道すべしと云ふ又大會ニ列し得べき人ハ(一)一般速記者(立法、官廳及ハ新聞通信者)(二)速記教授者(發明者、著者、製造者、公刊者、教師)(三)速記寫字生(四)印字機(速記器)ニ非ズ(働作者、製造者)及び其支配人の四種を成り又此大會ニ於テ討議すべき綱領ハ(第一)速記術過去の發達及び進歩現狀及び未來ニ於テの方法を世界ニ廣ク通報する方案(第二)熟練したる職業として實際の技藝問ニ速記の位置を確定する事(第三)教育上の補助として速記の大進歩を顯すべき方案(第四)宗教政事及び商業界ニ於ける速記一般の需用を高めべき方案(第五)綴字法改良及び各方國語ニ於ける運動ニ變化を與ふる關係及び万般の書記ニ於て印字機のみを使用することを奨勵する方案等ありト聞

●速記者世界大會 明年閣龍萬國大博覽會開期中ニ開設する事ハ兼て噂ありしが今回彌々世界博覽會委員長より選定せられたる大會の一として明年六月下半期即速記者の閑暇ある且つ會合シ易キ時期を撰ヒ紀念技藝宮殿ニ於テ開設することあり日本報告委員ハ藤木顯道氏ニ委託ありしハ付同氏ハ日本速記者關する全般の事實を報道する旨ありト云ふ

て討議すべき綱領の(第一)速記術過去の
 發達及び進歩、現狀、及び未來の方法を
 世界に廣く通告する方案(第二)熟練した
 る職業として實際の技藝に速記の位置
 を確定する事(第三)教育上の補助とし
 て速記の大進歩を顯すべき方案(第四)宗
 教政事及び商業界に於ける速記一般の需
 用を高めむべき方案(第五)綴字法改良及び
 各萬國語に於ける運動の變化を興ふる關
 係及び萬般の書記に於て印字機のみを使
 用することを奨励する方案等ありと聞く

○三重新聞 (廿一日)

●速記者世界大會の明年開龍萬國大博
 覽會開期中に開設する事、速記者間より
 ありしが今回彌々世界博覽會委員長より
 選定せられたる大會の一として明年六月
 下半期即速記者の閑暇ある且つ會合し易
 き時期を撰み記念技藝宮殿に於て開設す
 ることあり世界博覽會委員長の指揮に
 依り該大會の日本報告委員の藤木顯道氏
 に委託したりし、藤木氏に日本速記者
 云ふ關する一般の事項を報道する筈ありと

○東海新報 (廿一日)

(廿一日)

●速記者世界大會の明年開龍萬國大博
 覽會開期中に開設する事、速記者間より
 ありしが今回彌々世界博覽會委員長より
 選定せられたる大會の一として明年六月
 下半期即速記者の閑暇ある且つ會合し易
 き時期を撰み記念技藝宮殿に於て開設す
 ることあり世界博覽會委員長の指揮に
 依り該大會の日本報告委員の藤木顯道氏
 に委託したりし、藤木氏に日本速記者
 云ふ關する一般の事項を報道する筈ありと云

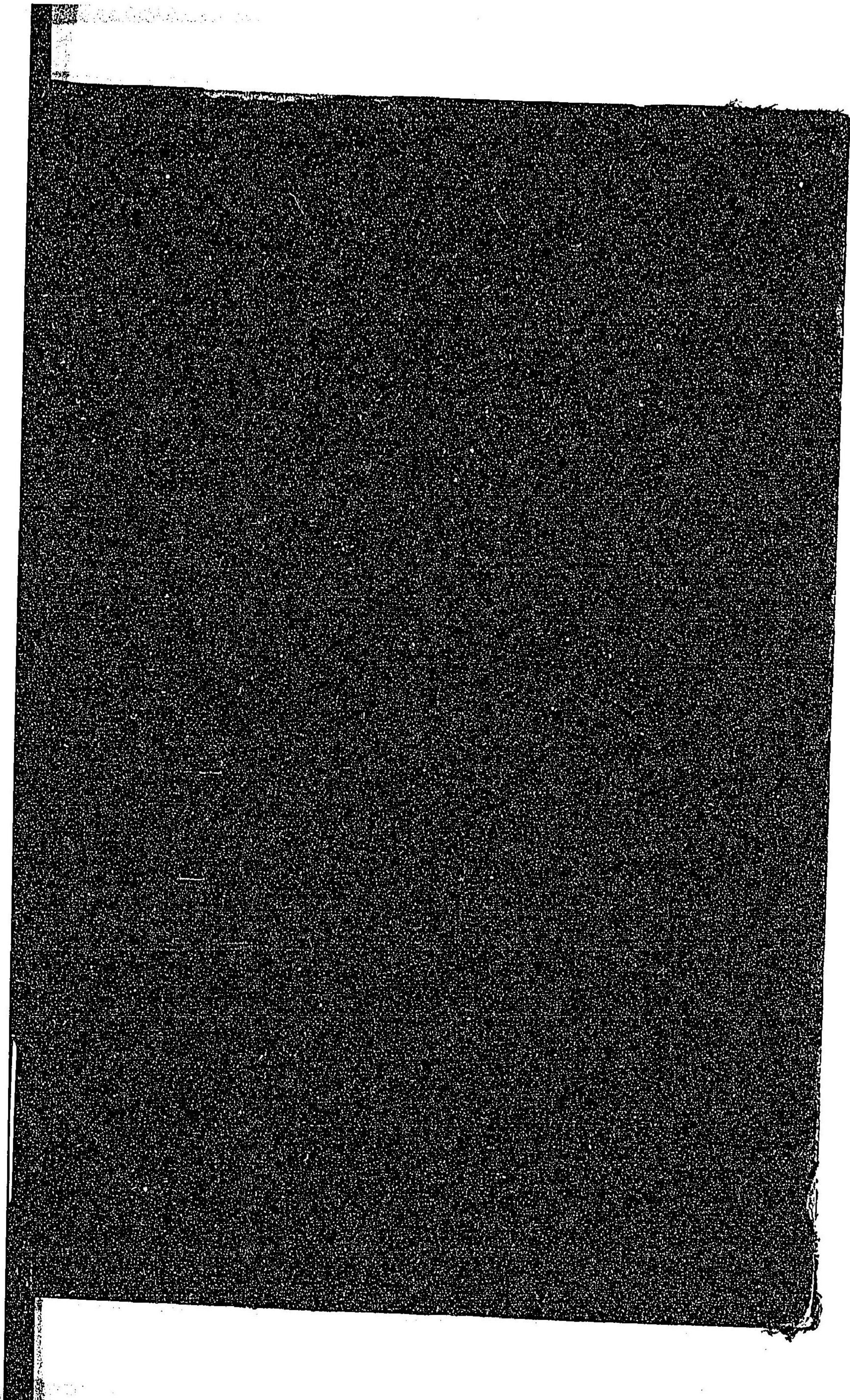
其他諸新聞に記する

所大同小異に付略す

附言

發明者との速記器に關し著者との速
 書法に關せり

22
100



22

100

076768-000-2

22-100

速記全書

藤木 顕道/著

M25.11

DAB-0126

